
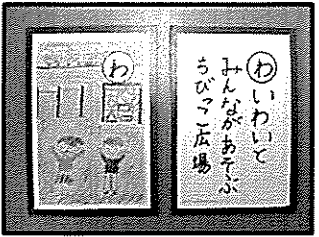
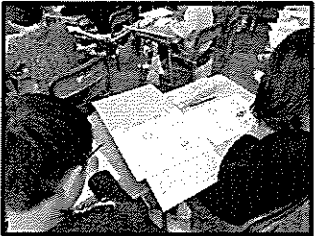
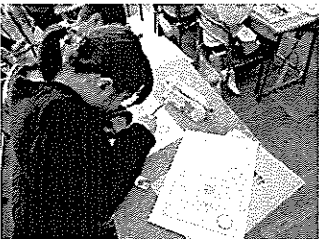
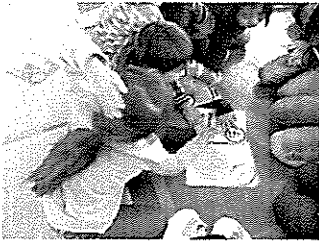


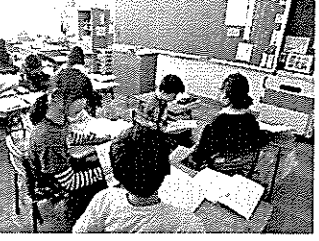


①事業実施報告書詳細

学校名 木津川市立上粕小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
(導入) 1	教室	目あてをつかむ		やってみたいという意欲がもてた。
4	校外	いいところ見つけのために地域を歩く(取材)		自分の知っているよいところをみんなに話したりしながら意欲的に活動した。 新しい発見もあったようだ。
5	教室	1学期からの町探検を振り返り、上粕のいいところ、残したいところを話し合い、選び出して、分担する。  いいところ、残したいところを絵札に描く。	絵札作り  	良さがうまく伝わるよう工夫して絵を描こうとしていた。  カルタをつくって楽しんでもらいたいという目標があるので、みんな一生懸命考えながら描いていた。
2	教室	読み札をつくる その場所の良さが伝わるような読み札の言葉を考え、読み札をつくる。 ※児童が考えた読み札の文例をもとに、担当教員が50音になるよう調整しながら、読み札文を完成させた。	読み札作り 	簡単な言葉で、短い文章を書くに苦労していたが、子どもらしい感じ方の文章ができた。

3	教室	完成した読み札を読んで、実際にクラスでかるた大会をする。	<p>かるた大会</p> 	できあがったとき、読み方を練習したり読みあったりするといったことを自主的に自然とやっていた。
1	教室	かるた大会をした振り返り うれしかったことやよかったことを話し合う。	 	自分の見つけたところがいいところだといってくれた。など、満足感を得た。
1	教室	振り返り 学習してよかったこと分かったことを話し合う。		自分たちがつくったかるたが本物のかるたになったので子どもたちは大喜びであった。「上粕にはいいところがいっぱいあるから」と地域に誇りを持たせた子どもいた。

## ②学習指導案

単元名 (全16時間)	上狢かるたをつくろう
学習のねらい	上狢のいいところを見つけ、それを伝えるためのカルタをつくろう
学習内容	1 上狢のいいところ、残したいところに気づく。 2 どのように説明すればその良さを伝えることができるかを考える。 3 かるたを通して上狢の良さを伝える。 4 上狢の良さを知り、それを伝える活動を通して、上狢のいいところを受け継いでいきたいという思いをもたせる。
参考資料 準備品 実施場所等	他校で作成した「地域カルタ」 タブレット、電子黒板、かるた用紙 上狢地域内、教室、和室

### 学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
1	学習のめあてをつかむ	上狢のよいところについて教えてくれるよう投げかける。 上狢のよいところをみんなに知ってもらう方法はないか話し合う。 参考にする「かるた」をやってみる。 自分たちもカルタをつくってみたいという意欲をもたせる。	上狢のよいところをみつけ、カルタをつくってみたいという意欲がもてたか。
6	上狢のいいところを見つけに行こう。 グループに分かれて、上狢のよいところを見つける。	上狢のよいところを見つけに行つてかるたの絵を描くための写真を撮ってこよう。 方面によってグループ分けしておき、いいところ見つけに出かけられるようにする。 タブレットやデジタルカメラをもっていかせる。 どの方向から描けばよいか考えて写真を撮らせる。	それぞれの場所のいいところに気づくことができたか。

5	かるた作りをする。	写真を見ながら、自分が決めた場所を描いたり、文を考えたりするように助言する。 主題を大きく描くよう支援する。 絵を描きながらつぶやいている児童のつぶやきをとりあげ、読み札の作成に生かせるようにする。	自分が決めたよいところの絵や文を、分かりやすくかくことができたか。
2	かるた大会をする。	みんなが楽しめるようにしようという目的をしっかりと持たせるようにする。  読み札の文をゆっくり分かりやすく読むよう助言する。	かるたの場所を知っているとってもらってうれしかったと感じた。
1	大会の振り返りをする。	かるたの場所について話題にすることができれば話していいよと伝えておく。	
1	振り返り	発表の振り返りをする中で、自分たちの発表の良さに気づかせるとともに、互いのよかったところを認め合えるようにする。	多くの人に伝え、評価してもらうことで、自分たちのかるたに自信を持ったようだ。  やってよかったといった感想が多かった。

<留意点>

- ・校外で活動する際には安全に十分注意させる。
- ・児童が決めた場所と地域の中で必ず取り上げさせたい場所とが違う場合は、教師から提示するようにする。
- ・読み札については、言葉遣いや表現などが適切かを検討する。

### ③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・意欲をもたせるために、かるた遊びを学習に入る前から行っておいた。</li><li>・教員から「上粕のいいところを教えて」と話題を提供したりして、意識化を図っていた。</li><li>・学習に入るまでの期間に上粕のよいところ残したいところを家できいてくるよう伝えておき、大人の思いにふれる機会をもたせる。</li></ul>
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・かるたの読み札については、3年生児童にとって、文章は考えられるが、かるたとして50音の分をそろえることは大変難しい内容であった。</li><li>・児童の人数によっては、作る枚数が変わることについて苦労した。 (今年度は一人2枚)</li><li>・校外での活動の際に安全確保するための指導者の確保。</li><li>・かるたで遊ぶ経験が豊かでない児童への配慮。</li></ul>
<p>(3) 児童の反応</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・かるたは楽しいという経験を積ませていたので、やってみたいという意欲があった。</li><li>・子どもなりに、上粕のよいところが好きで、残したいと思っていることがよく分かる実践となった。</li><li>・カルタの文を作るときは、五・七・五などのリズムよい文章にしようと一生懸命に考えていた。</li><li>・地域住民や保護者から、大変評判がよく、「いいのができたね」といってもらった子どもたちはうれしそうだった。</li></ul>
<p>(4) 担当教諭の変化</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・校区地域にどのようなものがあり、住民はその場所についてどのような思いをもっているのかについて理解が深まった。</li><li>・児童がどのような思いで読み札の言葉を考えたかを尋ねないと、読み札文の決定ができなかったため、児童の思いを尋ねいろいろと話すことで児童理解が深まった。</li></ul>
<p>(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・かるたを作るという内容は、児童にとって大変意欲もわくし、完成時のイメージも持ちやすいものであるため、導入を工夫することで、もっと豊かに児童が発想し活動できると考える。</li><li>・かるたを作成した後の活用について、さらに工夫しておく必要があった。</li></ul>